

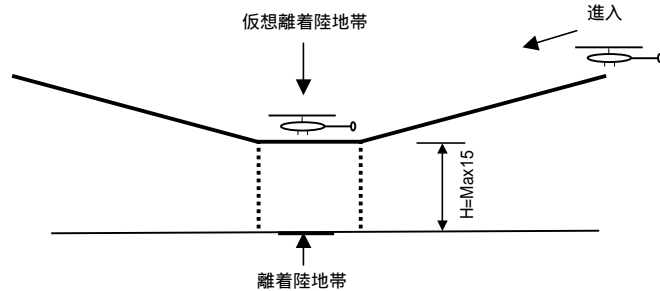
標準的なヘリコプターの本線着陸へのアプローチ方法

周辺の道路構造物等が支障とならない進入表面上空から進入し、着陸地帯の上空の仮想離着陸地帯にホバリング停止。
 本線に垂直に着陸。
 進入、出発の経路は、本線上の車両や人を避けて設定すること。

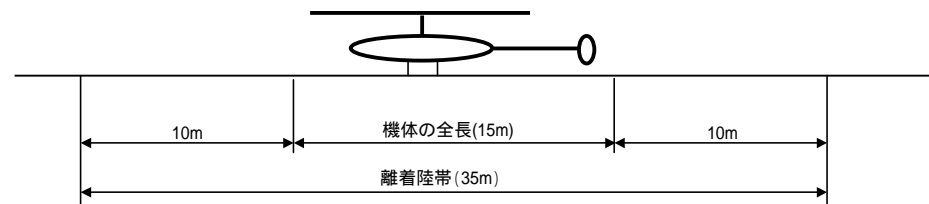
離着陸地帯の必要範囲の目安(BK117の場合)〔注：ヘリ機長が安全と判断した場合は、目安を下回った場所にも着陸することがある。〕

- ヘリコプター縦方向： 35m = ヘリコプター機体長(15m) + 前後10m(「防災対応離着陸場」の基準を準用)
 - ヘリコプター幅方向：
 - ローター部 22m = ヘリコプターのローター端から左右0.5d(d:ローター径11m)
 - 機体部 13.5m = ヘリコプターの機体から、左右0.5d(w:機体幅2.5m、d:ローター径11m)
- 〔ダウンウォッシュの影響範囲 20m = ヘリコプター中心から左右10m〔この範囲内では車の走行は概ね困難となる〕
 20 ~ 40m = ヘリコプター中心から左右10 ~ 20m
 〔風による車の高速走行への影響があると考えられる範囲〕〕

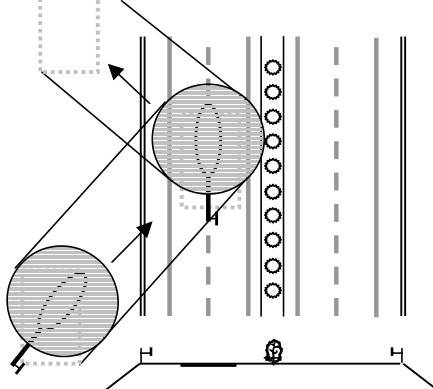
【アプローチ方法】



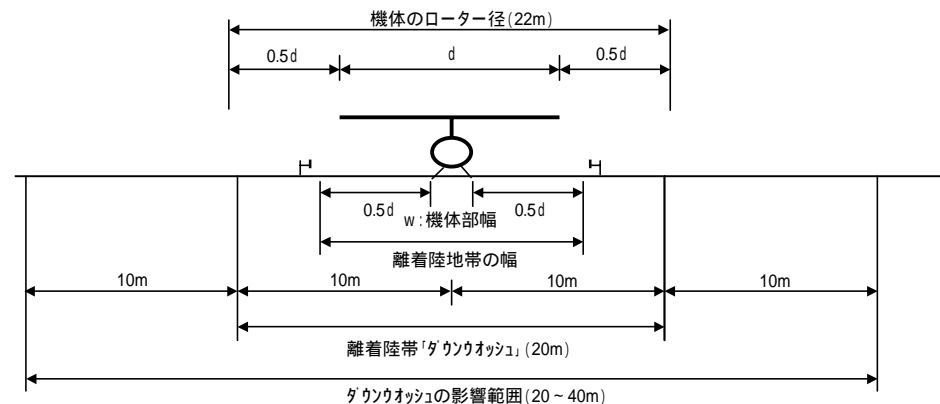
【離着陸地帯の必要範囲】



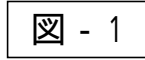
【人又は車両を避けて設定した仮想離着陸地帯への進入・離陸経路の例】



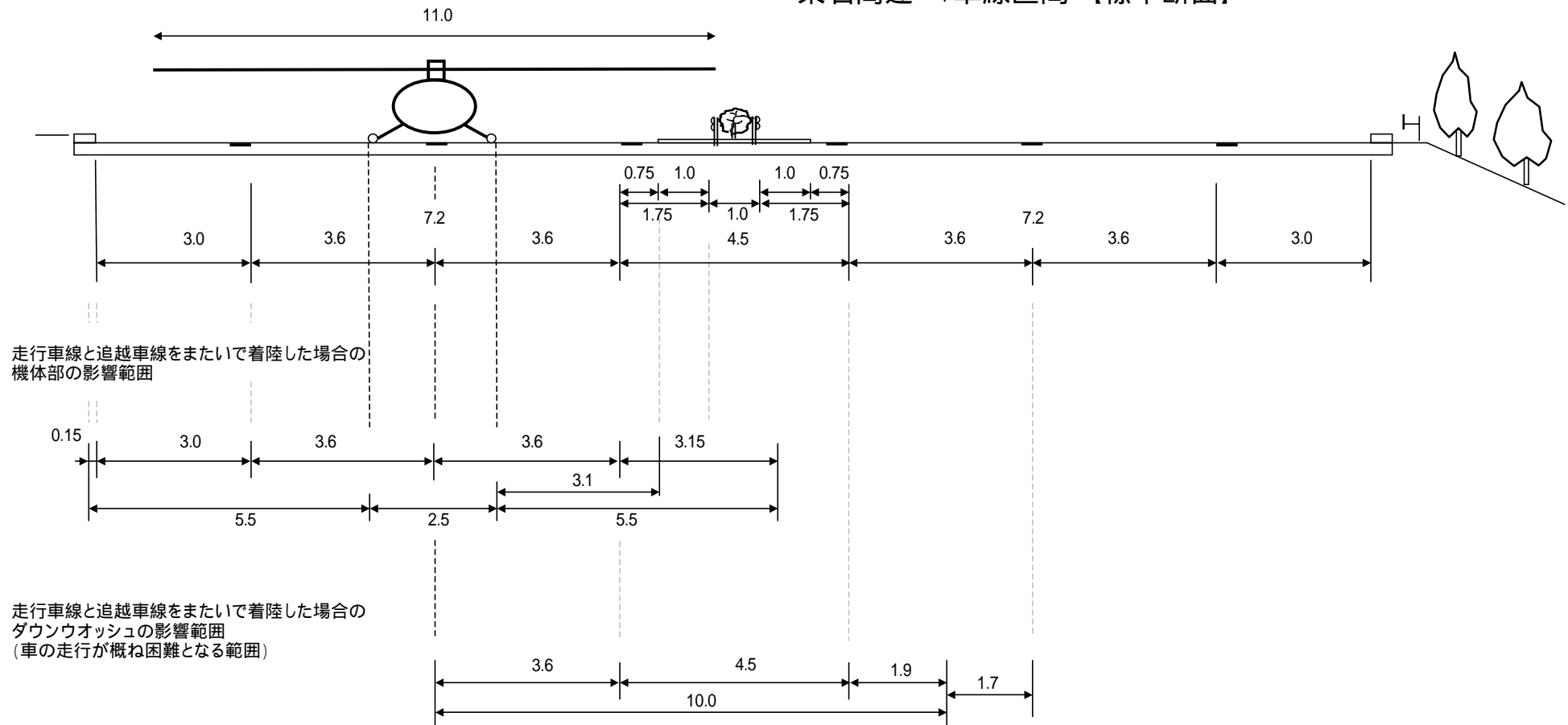
- 注1) 離着陸地帯には飛散物がないよう注意する。
- 注2) 離着陸地帯には人(誘導員含む)が近づかないよう注意する。



【標準断面(中央分離帯幅4.5m)】



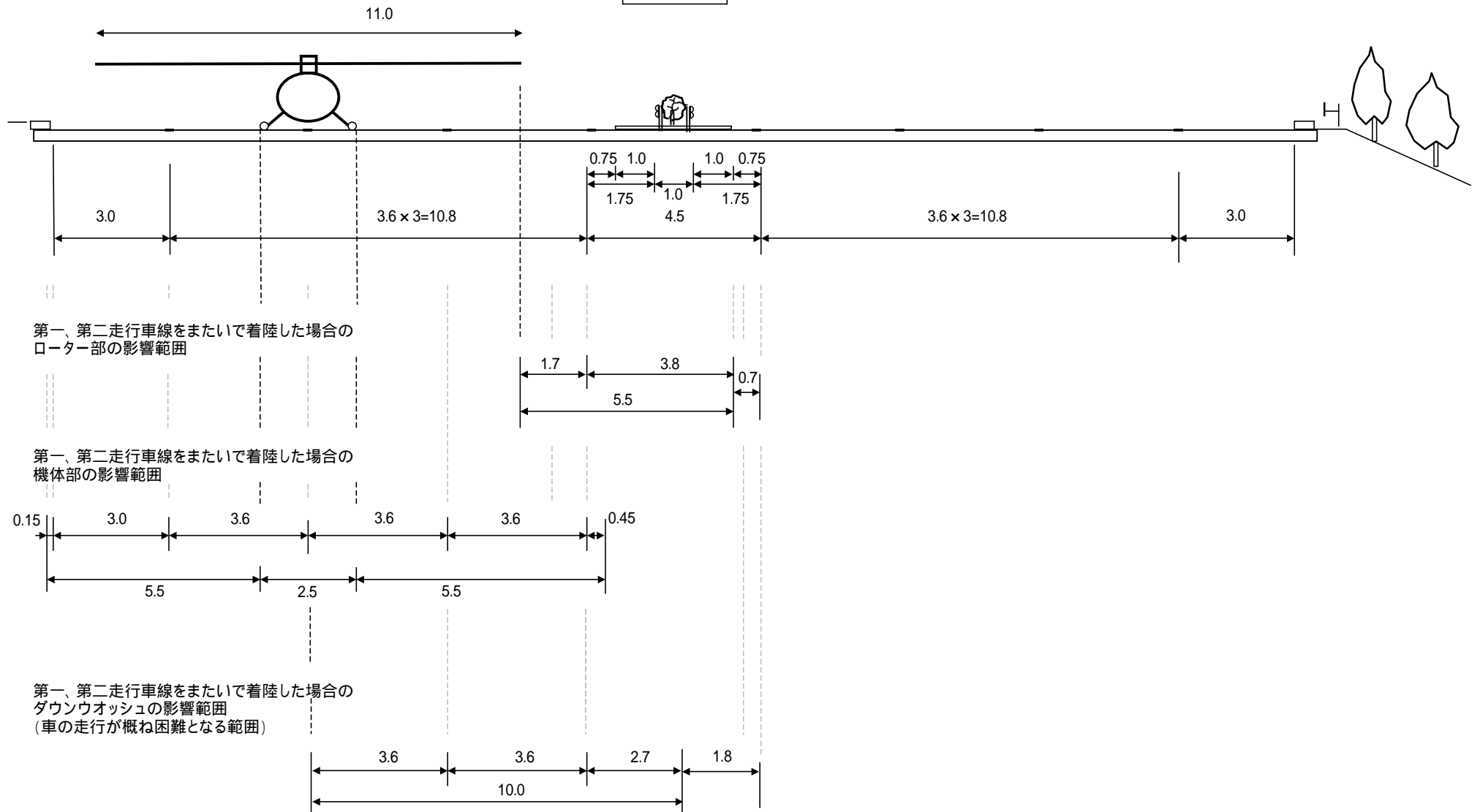
東名高速 4車線区間【標準断面】



【標準断面(中央分離帯幅4.5m)】

図 - 2

東名高速 6車線区間



【上下線分離断面(中央分離帯幅7.5m)】

図 - 3

東名高速 4車線区間 【分離断面】

